



13
1248



陽。物ハ陰。人ハ男と陽と。女と陰とす。物と水と陰
と。火と陽とす。鳥ハ陽。獸ハ陰。木ハ陽。草ハ陰。乃
好ハ事。一ツの事ハ陰。用ハ物。吾ハ物。惡ハ
陰。生ハ陽。死ハ陰。冬とて。陰陽。一
と。一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ
陰陽あり。陽の中ハ。又陰陽あり。又行ハ陰陽。又
一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ
一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ

三
右極と云ふ。一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ
一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ
一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ

名義あり。一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ
一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ
一ツの事ハ陽。一ツの事ハ陰。乃中ハ

237

儒釈道の三鼎乃ち是は比して。トてかくべ
くも。そは深なりしむるん。ふ教一義とめん。世
人のぞ。大明鄭玄等ひんを理の差別と經緯
なり。○佛法のユまゝ。ゆとや用とも。さまば金剛
經より。凡所有相皆是虚妄といひ。一切有るは
如夢幻泡影。如露亦如電といひてすべて大地

神道三才
困常立ノ
子ナリ
神代卷二
杵見ハク

人間とて皆虚妄なり。事物の中より一
 彩は人泡に似る。大地萬物の中より一
 はのそとものあり。佛も紙拈て。天上
 我獨尊といひ。惠能もまを有る物。靈長上柱
 天下柱地といふ。ぐわりがく。そのま物へ竹拈
 拈るまぐ。心はさうて。やぶのありさ。寂
 然とあけうて。鏡性のゆき。空るう。こ
 明の照さず。と。ふ。如る。ま。靈の感や。と。つ。事
 夢は。如。一。化は。て。空る。事。あ。べ。
 る。と。無。所。任。而。生。其。心。も。鏡。も。如。多。の。夢
 夢の迹あり。と。と。内。の。す。も。ら。漢。法。寂。然。

して。一念の動する。あつたふた人の相合
 て。やう形は。は。の。で。目。と。ぐ。め。紙。思。ひ。耳。の。部。と
 眼。が。合。忽。又。幻。う。て。お。塵。縁。執。し。一。事。り。我
 う。寂。然。の。心。と。戕。賊。と。合。ふ。より。て。心。の。幻。影。の。あ
 る。紛。擾。汚。乱。や。う。と。寧。静。の。事。と。い。ふ。う。や
 畢竟。彼。お。八。相。も。あ。う。と。是。神。ハ。神。ハ。あ。う。と。あ
 一。く。お。紙。縁。ち。神。と。離。て。無。会。妄。執。する。時。ハ。妄。縁
 既。も。執。して。真。空。と。の。つ。う。現。在。り。げ。時。は。い。ふ。り
 て。感。應。と。う。と。で。神。の。つ。う。は。寂。く。は。り。紛。擾。を
 や。う。と。内。と。う。の。つ。う。懼。く。は。り。寂。く。は。り。乱。お。は
 わ。ず。して。懼。く。は。り。寂。く。は。り。あ。う。と。が。う。の。お。う。く

る。れ。ど。お。入。る。る。六。塵。の。欲。向。も。投。て。没。す
 あ。う。と。心。の。お。神。の。う。は。明。然。と。な。り。お。う
 せ。す。が。う。ら。佛。学。の。才。一。義。や。○。道。家。と。の。親
 と。ち。の。用。と。と。有。物。混。成。先。天。地。中。の。い。ひ。る。法
 自然。と。い。ひ。密。ろ。う。真。空。と。う。中。有。精。と。の。精。甚。ま
 と。い。ひ。お。不。知。其。の。名。字。と。う。回。道。と。う。り。わ。く。ち。か
 く。め。ひ。て。さ。む。じ。の。行。拘。と。う。あ。う。と。と
 う。て。つ。う。や。う。と。う。と。氣。紙。ひ。て。大。地。の。中。根。と
 う。と。お。う。り。て。真。漠。の。中。に。い。る。お。あり。て。人。拘
 悉。く。い。る。より。う。う。と。事。う。と。な。り。つ。う。若。あ。の。一
 生。と。う。と。う。と。の。い。は。れ。る。が。人。と。生。る。と。聚。と

とつて是をやさうとばんはる禍の爲なり。及ぶる如
 と男いぬざる事此患なり。利と計を言紙校り。
 辱紙愛ひ。榮と慕ふ。増益法胸中を就て。
 精邪を動揺し。げ氣日くみ消耗と。ゆゑに
 げ氣減まりて。効がさきば。肉とあつらふ。弱まり
 ぬり。形紙搗木より比し。心を死灰のごとくして。
 意に意。冲漠純全の妙を辨する時。心乃知覺
 月くに。潜黙主す。心と。心元自然の言紙。言さる
 事あり。氣も。心して。尽る。弱り。と。知る。
 是老子の言と。言也。○儒者の理紙ユマとす。
 う。理を。形して。上る。つる。の。言。と。心。と。氣。と

の形にて下るうがはひよあゝとすてよ。げね公純
粹^{じゆい}玉言よりて。天地の先^{まへ}よなとく。万物の中に。
奥^{おく}ろ。び理あきむべし氣あそで。陰陽分也。天地位^{ちうゐ}
正^{せい}なり。人物化生をて。げ理より来^きふと。つ事
る。老氏乃氣も。是より生^なず。佛氏の心も。又是
と寧^{なや}む。げ理の人^{ひと}は富^{たみ}するりの成^{なり}名づけて。性^{せい}と
ふに義れ智^ちい。性の固有^{こゆう}ありて。理の發見^{はつけん}するり。
り。心のあらそ。理むげきむ。利害の疆^{かぎ}域^{いき}。榮^{さかぬ}
枯^{かわ}も。ものあらそ。理むげきむ。ば。是血肉れ軀^く
なり。がくのぞくするりの。ば。て禽獸^{きんじゆ}は遠^{とほ}ら
らむ。や。憐^れむ。人^{ひと}き理あきむ。惻隱^{せきいん}乃情^{じやう}とよし。

さやうふいふにげさうに。女よとてもつる物うに。人れに
やのみ紙甲ふぢまゐにむきさだのりせーとるあつ。
風波はたゞえいせん。あゝいむづつとて家と。屋の
おまはつてゐる物ぢうづう人の文書よびひて
海心のうちをさざやとて思ひようづう事紙
人の同ひけたる。とりまゐる。まづとり金の
貨財よ。さくつる。骨肉の親。刎頸の友とて。せ
たらまう。仇敵れ思ひとて。西乃の士。強敵の吏
とて。どかまぐたあゝ。志とて。づ海一年の中。あ
はれや。さうりのと。さう。えんた。ん。は。貨財れた
め。死。ん。りの。ず。と。は。れ。は。死。ん。せ。華。飲。が。金

てるひら。王^{えん}術^{じゆつ}が銚^{しやう}とつまざり。ちと潤^{うる}との富とりとめて。屋^や沢^{さく}潤^{じゆん}の財とやみづからさとしるりたり。さもさも。あまよりて授^{まづ}さむ。豊^{ほう}霖^{りん}も。天下^{てんか}沢^{さく}辞^じし。臨^{りん}りも。孟子^{まうし}も百^{ひやく}鎰^{えき}と。うけしもの。理^りのある如^{ごと}の。すゝみせり。

物よつひ。事よつひ。さうとてゐる紙む名に
けて。^い癖すといふさうどろりして。活捕らさ人の
病やだんどものもを愛するりのもさむ。うへ
ぬまともようと思つた。愛の上はさうぢやない。云
う躑り姫と愛せし。ちみは後ごにもしてゐる。と云
と。思つてゐるがさう。そのものがあじりのうへあれ

[illegible]

ことゝのいふては。影回も。常行人ぞや。すうす
 きののり。さうくのさうく。といひ。公の。後。も。文
 一。就師や。周。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 家。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 時。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 一。つ。の。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 来。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 ぞ。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 う。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 一。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。
 始。も。さう。と。いふ。と。いふ。と。いふ。と。いふ。

事とあふて。つゝつてに如きと。冥加の時。冥ハ冥漠の義とて。たとふするらん。加ハ加護の
 心とて。その加護と。なりて。難をする。と。
 今ハ難のことば。を冥加といふ。満ちる。是の時ハ。其の
 字去声なり。と。今ハ入声といふ。なほ。ば。た。ひ
 たり。

十八

中くといふ。ことども。人のけり。と。事と。けり。と。
 けり。と。答ふ。ことども。又。意の。けり。と。中く。いふ。
 と。ん。い。う。み。う。ことども。や。の。ことども。けり。と。
 と。中と。あふ。ことども。む。と。言。則。必有。中。と。つ。
 字。と。ん。い。う。みの。時。ハ。中。途。と。て。ゆ。れ。た。と。ぬ

十九

と。い。や。と。い。う。ことども。恩。情。中。道。終。と。
 と。い。う。ことども。
 前。和。列。の。守。不。光。院。亞。相。の。けり。と。人
 や。と。い。や。と。い。う。諺。ハ。けり。と。事。と。い。う。と。
 つ。と。い。う。ば。亞。相。の。ことども。す。れ。ば。けり。と。と。
 けり。と。い。う。ことども。い。う。家。の。老。に。と。い。う。と。
 き。事。に。思。ひ。て。事。に。思。ひ。と。い。う。と。い。う。と。亞。相。打
 笑。ひ。て。

人とならるる部のきりて

とらへてはるるかたまりびと

と古人のけりたれとていふこと諺のあふ

十



二十一

十一

二十六

十一

花ふ遠とつひ。唯ふの海も己の海とてなる。
 地獄縁鬼畜生修羅人等の。世界の事ありて。
 こそく。國ありあつたりや。皆さす如ありと。ある
 る。祖とよつて。心は。経とて。つて。よ。古。則
 も。こそく。祖師の賊とて。さうと。いふ。又。乃。どく
 心。乃。ん。の。却。て。佛。有。る。矣。ま。る。ん。あ。り。祖。師。
 する。事。さ。う。と。い。ふ。

三十一

人。の。さ。う。さ。す。癖。と。い。ふ。の。さ。い。て。の。さ。る。事
 と。い。ふ。う。さ。さ。べ。い。田。邊。家。の。懸。懸。と。さ。う。い。杜。武
 庫。と。な。信。と。の。む。戸。全。と。茶。氏。ひ。さ。う。り。山
 君。の。青。氏。う。ら。う。潘。園。が。華。山。君。運。が。木。後。和。

靖が梅子。猷が弁。物。氏。現。る。志。と。う。さ。さ。い。ん
 こそ。中人。の。ト。う。て。い。つ。れ。極。あ。ま。さ。う。さ。さ。い。ん
 つ。乃。癖。ある。さ。う。い。ふ。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん
 う。と。別。あ。ま。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん
 う。と。り。海。馬。の。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん
 い。の。さ。る。と。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん
 乃。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん
 氏。乃。乃。周。邊。と。い。ふ。と。の。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん
 物。氏。が。若。幼。あ。ま。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん。さ。う。さ。さ。い。ん
 乃。乃。楚。王。乃。細。腰。を。愛。せ。り。乃。乃。宮。中。乃。乃。乃。乃
 死。せ。り。と。な。ん。劇。子。乃。乃。博。弈。と。い。ふ。乃。乃。乃。乃。乃。乃

貨財と。しきづら。あん。癖なりと。ひて。ゆる。が。こ
し。季の娘。白皇の。伝道。たりと。あ。梁の武帝。乃。
佛は。子。遙。し。延。ひ。し。も。智恵の。再編。なる。の
る。あ。り。次。

三ノ
あ
は
は

世のち^ち知音といふものこそなほいも。二葉れむ
一。舟馬のま風より。るるさうとこなるそのが
ちとしで。思ふにほはびさうい。知りつてされ
む事よつひつ。わだよのこすや成事ぬぞに
りさうもと世よ。知音のるれさうーるん又一様め
人わりて。おとひそかぬよ。心のそとぬく。
ひらうさばありて。直とすりのしうて昇也。

飛あろふるべし。

[illegible]

と。あつゝす。大軍前より迫る。安危をばく。頭更
もある。ろりひ。宴樂といひ。圍基といひ。さう
大に。南日のを勢とせんや。謝金。基よか。さう
ハ。敵より。べら。さう。や。う。と。頼み。せん。事。
ふ。う。か。き。う。

三十三

人の。さ。う。う。き。う。さ。う。ひ。さ。う。て。あ。う。の。あ。う。
事。ハ。さ。う。か。た。う。さ。う。の。さ。う。さ。う。う。さ。う。さ。う。さ。う。
は。う。か。う。ず。う。て。人。と。は。う。ん。と。す。う。あ。う。う。う。
は。う。さ。う。の。さ。う。さ。う。の。さ。う。人。乃。ほ。れ。と。割。う。さ。う。
との。さ。う。さ。う。て。人。の。貪。欲。と。う。う。が。う。さ。う。の。さ。う。
は。う。さ。う。て。人。と。さ。う。さ。う。の。さ。う。人。乃。さ。う。さ。う。

か。う。て。さ。う。と。あ。う。さ。う。と。さ。う。さ。う。へ。況。や。さ。う。
さ。う。あ。う。ん。ち。や。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。人。乃。さ。う。
さ。う。さ。う。人。の。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。
さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。
人。の。さ。う。さ。う。人。乃。今。の。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。
さ。う。さ。う。と。有。さ。う。さ。う。侯。王。の。作。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。
さ。う。さ。う。さ。う。

三十三

大和國。筑前。の。守。護。と。う。片。桐。出。さ。う。さ。う。の。さ。う。さ。う。
ゆ。さ。う。さ。う。武士。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。
巢。と。う。さ。う。あり。卵。と。う。さ。う。て。雛。の。さ。う。さ。う。さ。う。
ろ。り。ひ。さ。う。さ。う。雛。の。さ。う。さ。う。て。雛。と。卵。と。さ。う。さ。う。

ど罪業へ。多くが力もあり。慈悲へ。あり。おまが
罪業。あが慈悲とけり。すま。あり。り。は。旅
強へ。つひく。も。ん。び。他。事。も。通。じ。べ。
る。程。とい。ふ。事。ハ。世。も。は。や。く。つひ。く。ら。や。る。綱。より。
書籍の中にも。那。道理。何。道理。とい。ふ。事。ま。
ふ。う。ま。あり。さ。ま。ご。道理。とい。ふ。時。ハ。乃。の。字。を。
つ。う。も。同。人。あり。一。は。時。の。道。ハ。た。ま。の。て。く。
う。く。る。る。べ。一。は。道。ハ。は。ら。と。つひ。東。海。江。お。徳。
な。と。い。う。が。ご。一。是。ハ。乃。の。約。や。お。ま。ハ。乃。の。約。こ。
ふ。う。る。べ。一。と。つひ。き。お。柳。紙。を。く。移。は。は。り。つ。
う。う。一。上。を。強。

龍多川中



人。ま。つ。つ。さ。る。れ。な。ま。り。る。紙。や。乃。と。せん。表。ハ
よ。は。居。て。下。を。や。る。もの。の。事。を。下。を。あ。り。ま。し。酒。
さ。ん。ハ。表。と。つひ。さ。一。は。乃。と。つ。う。ま。つ。る。の。
る。事。を。乃。然。る。い。づ。ろ。よ。さ。る。ご。も。は。乃。の。や。べ。ご。
父。子。兄。弟。ま。婦。の。ま。ど。り。も。又。う。の。ご。一。高。
賈。士。農。の。つ。と。あ。も。ま。い。う。事。を。ご。一。を。富。よ。
つ。と。い。う。も。表。者。の。つ。ひ。乃。と。ご。一。乃。さ。て。む。ご。
が。と。ご。乃。つ。う。さ。る。な。ご。節。紙。す。の。る。人。と。い。べ。一。
富。家。へ。は。ご。乃。乃。さ。る。さ。る。ご。一。て。貧。乏。食。族。
な。あ。つ。ま。ご。ご。陰。紙。紙。を。さ。る。乃。ご。一。乃。の。む。

おもひつゝあぢきなき。今の世乃。富も。名も。実の。よめ。み
ふて。い。だ。つ。と。き。然。い。や。き。ぐ。く。い。思。ひ。す。あ。
し。き。然。と。然。が。て。く。よ。ひ。さ。り。あ。る。と。さ。う。い。あ。
ひ。あ。る。の。と。あ。て。下。輩。一。瓢。の。は。と。ひ。と。さ。も。あ。
人。さ。う。さ。も。あ。て。さ。う。が。と。あ。事。は。さ。う。さ。う。あ。
あ。ん。つ。わ。ふ。守。護。の。奴。と。り。て。浮。雲。の。空。位。よ。
ふ。と。あ。一。生。然。と。さ。う。ん。子。孫。の。後。さ。ん。事。日。と。
さ。て。後。め。へ。一。齊。乃。晏。平。仲。が。三。族。と。あ。あ。
宋。の。范。文。公。の。義。田。を。い。と。る。と。子。孫。富。貴。に。あ。て。
富。貴。を。い。と。る。人。さ。う。べ。い。
韓。退。之。が。原。道。乃。の。篇。性。学。乃。眼。より。見。る。韓。退。之。

ありぬるけきも。も。黄。氏。日。抄。よ。い。つ。と。と。と。捨。て。
さ。事。も。と。あ。り。次。の。者。り。と。あ。さ。う。と。あ。り。
あ。や。さ。り。

世人のいひく。弘。は。五。師。の。非。通。權。化。乃。僧。
も。て。移。之。の。奇。妙。と。さ。り。だ。と。も。あ。と。咒。
て。執。湯。と。さ。り。又。執。湯。と。さ。り。と。あ。り。生。果。と。焼。
栗。と。さ。り。と。あ。り。と。あ。り。地。の。造。化。と。集。ひ。事。
と。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。今。の。遠。季。よ。及。く。
く。心。奇。と。さ。り。と。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。
傍。る。人。の。い。ひ。く。と。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。
り。と。さ。果。心。居。全。と。い。ふ。人。と。種。之。の。奇。妙。と。

るまゝといふやうに又ばはる。故下といふ御あり
 て。小童ふといふるも。奇ある事のみぞする。
 たるも。砂のよな種とまけむ。肉より爛
 蔓たる枝より瓜茄とま。其のやゝを呪
 て。大魚とま。其のやゝを熱火とま。又の腹
 中より虫とま。こころをさするたぐひ種とれ。邪
 変。目状とま。つと事多かり。弘は大師令の
 世よりまのとなす。む。御術とま。ゆる。や。ま。ふ。等。よ。
 と。ま。する。な。も。中。必。行。用。する。人。あ。り。と。彼。時
 代の人と。ま。と。ま。り。つ。る。も。や。と。ひ。ひ。さ。が。る。い
 う。つ。事。つ。ふ。人。の。中。へ。ま。も。あ。る。す。り。と

より弘はる。どの邪変。邪をた。る。る。べ。れ
 と。怪。か。れ。邪。の。法。は。聖。人。の。こ。ま。り。と。ま。
 だ。づ。る。る。の。ま。ま。也。あ。も。あ。る。と。

三

又よりてい。聖書。六経。い。さ。や。代。れ。記。録。を
 見。と。て。や。こ。る。と。世。変。成。り。か。り。大。儒。の。法
 集。又。集。も。又。見。ま。り。司。馬。溫。公。の。通。鑑
 よ。と。ひ。る。事。生。の。精。力。い。は。書。よ。あ。る。と。い。つ。る。や
 お。物。ま。る。び。と。る。の。も。の。又。と。く。き。に。む。べ
 し。ひろく。ん。る。べ。う。と。い。ふ。と。結。乃。功。を。
 性。学。の。中。より。あ。る。べ。い。と。ま。こ。ま。ひ。ひ。と。
 見。中。り。一。也。や。

お多中

十

九

学^{まなぶ}の父^{ちち}は志^{こころ}とらん人^{ひと}毎^{まい}俗^{しやく}もやとらりけり。
 市^{いち}のの中^{なか}は俗^{しやく}とつふと。因^よて先生^{せんせい}よりてつえ
 まんころそ難^{がた}とけり。世^よも交^{まじ}りたる。乃^{すなは}ち熟^{じやく}せむ心
 ざす。如^{ごと}ひとくわさむ。苗^えも芽^めあれ。地^ちぞする。
 園^{えん}鑿^{さく}よりて。方^{かた}柄^へたる。と如^{ごと}く結^{むす}て。難^{がた}入^いにち
 一^{ひと}や。こりあも。学^{まなぶ}りの。牛^{うし}毛^けの。わが。こり。似^に
 は。こり。人^{ひと}の。麟^{りん}角^{かく}の。も。こり。る。ふ。けり。一^{ひと}。
 地^ち日^ひも。は。く。ま。と。既^{すで}も。あ。ま。る。の。あ。ま。り
 流^{なが}して。持^も儀^ぎの。末^{すえ}も。奔^はる。ば。けり。い。と。る
 と。こり。ま。あ。ど。や。あ。ま。る。俗^{しやく}の。た。と。け。思^{おも}れ。の

十

又^{また}とらりて。軍^{いくさ}民^{たみ}の。卵^{たまご}も。居^ゐと。ふ。と。も。持^もは。乃^{すなは}
 人^{ひと}も。こり。る。ん。孫^{まご}が。り。か。る。べ。と。事^{こと}也^{なり}。
 天^{あま}の。系^{けい}と。つ。ふ。づ。う。へ。の。周^{しう}髀^ひ宜^い夜^や渾^{こん}と。と。て。
 この。家^{いへ}あり。宮^{みや}夜^やいた。と。て。昨^{きのう}統^{とう}る。周^{しう}髀^ひの。統^{とう}
 と。は。づ。る。如^{ごと}く。り。と。後^ごの。蔡^{さい}邕^{ゆう}も。つ。ひ。今^{いま}
 世^よも。用^{もち}る。如^{ごと}く。渾^{こん}天^{てん}の。一^{ひと}統^{とう}る。り。さ。も。こ。り。る。人^{ひと}の。あり
 さ。も。如^{ごと}く。は。よ。陽^{やう}氣^きの。つ。も。る。也^{なり}。地^ちも。陰^{いん}陽^{やう}乃^{すなは}。
 る。ま。る。の。の。り。て。ふ。乃^{すなは}中^{ちゆう}も。あり。ふ。の。難^{がた}卵^{らん}も。
 一^{ひと}。地^ちも。卵^{らん}中^{ちゆう}の。黄^{わう}如^{ごと}く。は。よ。ふ。ふ。と。地^ちと。つ
 ひ。あ。地^ちの。下^{した}も。皆^{みな}ふ。や。ふ。と。と。と。り。て。か。さ。り
 わ。と。地^ちの。外^{そと}も。皆^{みな}ふ。と。り。て。地^ちひ。と。り。す。は

虚空と云うて云。といふのもや。虚空といふ。映るは名
 るるべし。その正しくなり。彼蒼と云うて。ま
 く見ゆるは。日月の映するあるらん。大明則日月
 不明（あきら）と云ふ同ものひくく。性虚なる映りな
 きに。運轉してむむ時ありとも。たとわすは是也。
 と運轉するより。て。萬物変化するといふ。茶臼の
 轉して。茶紙裏かするといふ。また、まのまをば。理と
 いふ。理いふとして。ひくく。張子厚よりて。性虚
 といふと名づけひくく。種子の秋輪といふにわ
 す。さる所いふにせん。たは至極全神の本。よ
 路一くもつらて。種と云へ。さき。養く廣大

うて。よび覆ふまへに形體とてうて。えと名く。
四時八節を温風ぬとて。号令の政の約る
まへに主宰^{しやうざい}を招て。大帝と名づけ。上帝とて。
禽獸草木萬物の常格屈伸やまをば。功
用とて。うて。こまに鬼神と名く。形とあらず。
臭^{くさ}り。法^{はふ}ゆとるべし。まへに妙用とて。
て邪と名づく。默昧^{もくまい}の中。つて。氣息^{きそく}のつとまわ
まへに性情と招て。乾と名づけ。り。まへに天の
極の必然。事物の大源とる。事のり。まへに。まへ
に。大地の事物より用て。人物より。まへに。まへに。又
時ありて。閉塞^{へいそく}混合^{くわごう}して。大地滅し。人物消^{しょう}て。まへ

理字類通
要見へり

一めの五極よ。飯べ。又。時ありて。田圃して。人物生
まへに。べ。か。の。まへに。やむ。時。り。登。米。とる。
四時八節とて。まへに。まへに。邵子と名づく。十二
節九十六百年とて。元と名づく。事物の自然。経世書
る。も。胡。胡。の。統。一。大地の滅。山川顛倒^{てんてう}の時。ひ
名づけ。て。終^{しゆう}荒^{かう}の世とて。今。統^{しゆう}よ。まへに。の。りて
見。まへに。螺^ら蟠^{はん}壳^{くわく}ありて。まへに。石。中。の。まへに。まへに。石。を
こまに。前。世。の。まへに。まへに。螺^ら蟠^{はん}又。まへに。中。の。物。や。ひ
まへに。まへに。まへに。柔^{やう}る。まへに。剛^{かう}よ。まへに。まへに。人
まへに。まへに。まへに。まへに。

日月のうつろ。沈存中が筆談といふ書に。の。

は日のひかり。地よりうつるぬ。月のひかり。すう
て。下面よりうつて。白のひかり。もふに満り。それ
と。陰といふ。九日十日と。次第に。日。月。の。下。へ。ま。い
る。て。照し。す。ぬ。日。の。月。と。日。と。お。對。する。ぬ。り。
月の。下。面。へ。照。す。日。え。と。う。け。て。圓。満。た。り。日。月。む
く。ひ。照。び。よ。り。て。げ。お。と。照。ま。と。つ。や。お。映。り。
望。月。と。い。ふ。う。さ。て。十六。日。より。日。の。光。月。の。上
面。より。す。う。づ。ま。り。る。ぬ。月。圓。る。ふ。似。たり。さ。て
よ。す。三。日。より。うつ。て。ま。ひ。り。す。ふ。と。面。より。う
つ。人。間。下。より。入。る。も。だ。か。り。く。中。月。然。る。る。これ
と。下。照。と。名。づ。く。大。空。の。み。日。と。は。ず。く。い。ふ。さ。光

と。面。より。うつ。て。照。る。よ。う。て。又。日。が。よ。り。あり。て。
月。下。に。お。日。光。月。の。上。面。を。照。し。て。下。面。は。え。る。ぬ。
ゆ。へ。人。間。下。より。月。の。下。面。と。入。る。月。より。と。思。ふ。
照。し。つ。る。も。月。光。を。さ。て。照。く。も。だ。る。り。さ。て。日。蝕。
といふ。事。は。朔。日。は。あり。り。の。晦。日。の。一。つ。る。げ。時。を
月。と。日。と。一。如。き。ある。ぬ。は。さ。さ。る。然。れ。ど。り。あり。を
いふ。時。日。が。月。を。うつ。る。月。の。下。に。ある。ぬ。や。日。が。月
を。うつ。る。も。さ。だ。に。さ。え。く。と。これ。を。日。蝕。といふ。月
蝕。といふ。事。は。十六。日。は。あり。り。の。十六。日。の。一。つ。
日。が。月。を。うつ。る。月。と。日。と。一。如。き。も。だ。る。り。さ。て。日。蝕。
といふ。事。は。朔。日。は。あり。り。の。晦。日。の。一。つ。る。げ。時。を

えり狹へまろくして。周圍之百歩を度り度
のへあり。地をめぐりて。左に旋マユして。一日を一周

一て。一なるなり。す。日。見。え。よ。つ。て。す。こ。と。
 そ。一。日。一。周。せ。り。ま。つ。ま。い。一。日。一。夜。づ。を。
 せ。さ。あ。つ。り。て。二。百。ち。十。め。日。九。百。軍。ふ。日。の。二。
 百。ち。十。め。り。て。天。と。合。ふ。是。一。日。見。の。数。也。
 月。は。天。よ。つ。の。く。む。と。一。日。一。周。せ。り。と。さ。す。
 十。ち。十。九。ち。夜。の。七。つ。り。て。二十九。日。九。百。軍。十。
 ち。日。の。四。百。九。十。九。り。て。却。て。日。と。合。ふ。十二。合。
 ち。り。時。ま。づ。全。日。は。二。百。四。十八。あり。餘。を。づ。り。
 時。に。九。百。八。十八。也。是。と。日。は。の。く。く。九。百。軍。を。
 一。日。づ。り。す。ま。い。全。日。六。日。と。二。百。四。十八。乃。り。あり。五。
 ち。日。は。都。合。り。て。乃。り。時。二。百。ち。十。め。九。百。軍。ふ。日。

の二百軍千八。是と衆月日の救也。衆は十二月あ
 る月。二十日あり。六百軍千八二衆の常救也。衆
 是とも曰く之と余する事ハ常救より也。又曰。
 九百軍千分日の二百千むなり。是と氣盈とい
 ひて。衆自は不入。又月と曰く余する事ハ常救
 よりも。又曰。九百軍千分日の六百九十二す。一
 是と朔虚といひて。又衆自は不入。さて日月十二
 分の日数をとりて。六百六十百然。一年とさる
 む。このむきき。す。さ。さ。の。氣盈朔虚比合也
 て。十日。九百軍千分日の八百七十七ある然。三年
 つりつた。二千二日。九百軍千分日の六百單一とな

俗のゆへ。三年ごとく月をなきて。氣盈朔
 成。くひちや。元はふで。天の周圍三百六十
 なるまじ。地はあつる。地百八十二なる地
 下より事。又くのご。地地より
 なる事。三千六。南極地より入る。又三千六。
 地の高まる。天の中央はあつる。げ。地
 の南六十。地高もの。天はあつる。南十二
 と。夏至の日。天と。八尺の表。天と。日
 なる。天と。景。天と。八尺の表。天と。日
 なる。天と。南二十。天と。天と。天と。八
 尺の表。天と。天と。天と。天と。天と。天と。

十一

乞と辱るひ。心成りてさうくとも。金鴨も南浦
 の雪成りたり。鼻根の塵と。捻擻をぬも及
 てい。清香輕氣とて。用と偷の婦人たる人
 も。稱不せざるもあはれ。近代同者もひて。
 倅とさるる。はたの放流といひつる。圍
 碁ハ丹朱が戯とらる。は仁義成りて。
 清登成りて。くせんも。すまじき。南岐の世
 愈と。まじき。荊公が梅結と賭と。さうく。風
 流の白紙といふべし。も。外の伎藝。梅結。た。是
 ら。成りたり。す。は。ひ。す。ま。じ。き。さ。れ
 と。事。は。さ。う。く。ひ。毎。日。は。さ。あ。ひ。る。時。は。つ。つ。も。さ。う

一
と
ひ
き
。

[illegible]

とて。懈慢の邪妄と。退けぬるまゝに居るや
あつじや。さうくうまゝなりてゆくべ。其の
風もや。ぐりぬん。或は茶もす。つひもおろし
どいての。ある人もあつて。さうくうま。子貢が
ま。羊。み。さ。く。ま。や。ゆ。ん。か。く。さ。し。ん。金
一。か。より。あ。織。と。さ。ま。さ。げ。貧。究。紙。く。り。ん。ど
あ。て。ひ。さ。す。う。に。だ。る。み。こ。の。む。さ。い。ん。ま。か。さ。し。次
法。后。も。ふ。き。蓋。や。たり。受。文。乃。乃。と。さ。へ。し。り。能
か。あ。つ。じ。と。聖。人。の。は。ま。ひ。し。り。お。ね。は。重。宝。付
物。乃。傳。り。り。て。ゆ。く。も。ふ。さ。茶。礼。の。ど。こ。ろ。さ。う。く
ある。事。と。り。す。て。び。乃。と。さ。う。せ。人。と。飽

暖禽獸の戒と。まゝぬるべし。

利休禪門茶湯れおとて。天下の士を又作た
ふ。と。く。く。う。ろ。わ。ひ。も。是。を。友。友。蒲。生。花。強。も。ぬ。人。
大坂表。よ。公。務。あり。て。暫。滞。ぬ。し。ける。次。る。数。年。の
縁。ひ。る。ま。と。て。堺。の。り。て。利。休。の。茶。湯。と。
の。ど。く。く。禪。門。か。ひ。く。し。と。茶。湯。と。茶。の。湯。事
と。り。め。さ。む。書。院。よ。お。で。お。話。す。る。次。る。蒲。生
年。比。の。乃。ど。く。く。と。め。る。び。と。と。その。思。ひ。
禪。の。ま。ま。ま。一。話。する。演。の。る。の。香。炉。つ。見。せ
させ。な。め。人。の。い。へ。た。禪。の。像。も。気。な。う。り。り。想。ひ。つ。る。あ
つ。と。さ。ま。の。お。ね。て。内。よ。入。の。香。炉。と。れ。お。し。瓦。礫。と。

本紙。おくりとめて。立所よすにあらうへな
らばなきぞ。強^いど。ふかき及ぬ。あそくさくらて。
六十七年秋強めなき。あこ合抱^{ぶく}りたり。こ
まを一年より百むづ。さりとて賣^うひども。十年に
らくく。きりにくせども。みどりめのさるくゆよ
つ。まじたるも。牛とかくまはらうらんとする。かく
て。さるく。また。是とさるまの。貴^いま林を強^い
ゆる。循環する。あざりて。生くやまざりを
つ。産業。とり。かぐで。生涯を立所の中にて。樂
こまん。さきより。桐屋の名紙。ゆかりとめん。父の令^い
とうろくとせむ。て。よくまはる。く。

三才
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

人の子孫あり。子孫すおち。父祖の氣也。まゝ
孫まゝに伝はる。て。まゝつら。い。の。ど。血脈同氣
感通。て。父母の魂魄。来格すべし。た。人。父祖
の氣の子孫は。傳はる。事。その氣。その氣。傳は
る。が。ごと。實。人。あ。ま。ま。あ。た。て。り。ふ。ご。子
も。其の氣。す。で。ま。ま。の。の。る。ぬ。極。も。ど。
は。ご。め。の。事。ま。ま。と。事。つ。ら。る。し。

三十九

魏の文侯の時。西門豹といひ。儒者。と。鄴とい
は。れ。の。令。ま。ま。子。孫。事。あり。西門豹。鄴。ま。ま。て
人。ま。ま。國の荒。る。ば。て。知の。宿。老。は。ま
び。と。民の。ま。ま。と。曰。宿。老の。ま。ま。い。地。

ま。ま。の。あり。て。ま。ま。は。げ。さ。ま。非の。れ。ま。ま。
鄴の。ま。老。と。廷。掾。と。い。ま。非。と。守。護。す。ま。ま。大。巫
女。あり。て。巫女の子。十人。ま。ま。ま。り。毎。年。に。つ。ま。
ま。ま。つ。り。と。ま。ま。の。非。の。は。ま。婦。を。娶。る。事。あ
る。ま。ま。の。ま。り。て。ま。老。廷。掾。大。巫。女。等。今。合。て。
鄴の。人。民。の。中。より。婦。と。あ。つ。て。ま。の。事。氏。
い。ま。ま。の。傳。は。る。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
大。巫。女。の。ま。ま。ま。り。て。貴。賤。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。の。婦。は。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。洗。は。ま。ま。新。衣。と。つ。け。齊。宮。と。い。ま。ま。ま。ま。
幕。と。り。ま。り。床。と。り。齊。戒。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 龍の川下

わ列るうろ。さうろろ。法蓮村とらん。ひくろ。如よ。
寛永七年のころわひ。あさまり。さ目るこの傍を
到来して。何るあろ。菴室とむき。比托持。
て念佛を修。たりろ。その室を風弊衣とい
う。夏の潦水。常坐。おすといふ。おろろ。
佛名を。やめど。かくて。六七乃。常雪。ひそく。同十
四年のま。佛前より。ひいて。念佛。一。居ろ。ある。法
ひ月の十日あまる。東の山。乃。雪。ひいて。何よ。ま
の来り。くんと。わび。ゆる。おす。さうろ。ま。お。忘
して。ま。常と。観。おろ。おろ。ま。ま。あ。さ。う。

おき中

つの中に。光明さう。紫雲を見まぐ。そ
その河津路。さう。現トて。傍よ。向て。つ。く。
汝佛号と念修するの作心。他人よ。あ。く。り。明年
とぞ。ふ。ふ。日。の。結。解。を。と。げ。て。の。ら。二。月。廿。一。日。午。
刻。佛。前。よ。坐。し。て。結。ぶ。一。あ。ま。さ。に。あ。り。ひ。く。
む。思。又。ひ。く。り。の。傍。あ。り。て。お。う。り。あ。べ。一。汝。こ。も。
を。た。の。も。て。遺。骸。城。に。あ。ら。と。づ。う。と。す。れ。だ。あ。さ。
めて。空。方。よ。あ。り。見。る。ふ。人。乃。あ。る。か。の。傍。さ。て。い。る。
か。う。ひ。め。と。は。お。の。涙。う。さ。り。あ。る。ど。こ。ま。う。に。あ。る。
し。て。頸。よ。かけ。明。年。の。ま。を。結。居。る。ま。江。水。
越。お。れ。官。府。淨。土。門。乃。も。た。る。野。山。は。結。で。う。さ。は。い。

南都よ。を。り。ひ。さ。さ。う。ふ。ふ。日。の。修。約。心。感。
し。て。ま。が。唐。室。紙。さ。う。ひ。け。ま。ぐ。の。傍。あ。れ。告。う。
う。ひ。さ。と。思。ひ。さ。あ。ら。ま。う。う。ち。結。り。つ。遺。骸。
の。事。と。た。の。こ。う。ふ。越。の。も。た。だ。つ。う。と。思。ひ。さ。
が。明。年。の。ま。を。結。し。て。う。り。ぬ。ま。人。に。ま。あ。狐。や。
の。り。の。つ。さ。ひ。け。う。や。笑。の。あ。る。中。に。ま。年。も。
た。ら。て。次。乃。ま。よ。も。あ。ま。ま。越。の。も。た。も。あ。れ。二。
月。廿。一。日。殊。よ。天。久。晴。め。う。り。午。刻。な。う。り。佛。お。よ。
黙。坐。し。て。眠。る。が。う。い。死。し。く。う。あ。人。見。人。生。
あ。れ。あ。れ。と。拜。さ。る。心。で。目。を。さ。ら。て。ま。う。ろ。
ふ。古。橋。然。し。て。下。ら。ざ。り。う。あ。り。う。り。後。

は。夷八統の人路をづつ孫肩をすりて孫を世に
やむ時なり。南部の秋門ぐらに因てよと被よせ
り。姓吉よん。さるは。あまて。今代の。き。傷。る。傷。
前。の。年。より。通。く。死。び。と。あ。ま。る。い。う。す。ま。い
も。事。い。う。ら。ん。と。思。ひ。ま。づ。く。人。乃。と。わ。が。さ。浮。屠。
氏。い。あ。ま。る。る。事。で。理。ふ。り。て。な。さ。だ。格。物。致
知。の。場。持。も。又。あ。ま。づ。く。凡。今。の。思。ひ。つ。つ。ま。る。の。こ
る。事。で。い。は。傷。い。ふ。思。ひ。ま。づ。く。て。あ。ま。も。思。ひ。ま。づ。く。の。や。
あ。ま。づ。く。づ。び。浄。ち。門。は。入。ま。る。り。念。佛。を。修。て。
成。佛。と。な。り。と。あ。ま。る。信。て。い。は。定。む。い。は。氣。と。類。ふ
事。や。ま。づ。く。久。く。久。く。事。な。り。即。是。い。は。氣。金。神

の。主。宰。と。な。り。て。他。の。利。慾。妄。想。こ。も。く。を。消。散。
ぬ。思。却。て。聖。ま。似。る。事。な。る。べ。く。秘。種。言。動。を
よ。念。佛。の。よ。ま。あ。る。ふ。り。て。思。と。信。と。お。感。へ
て。愛。寂。の。間。は。阿。弥。陀。を。拜。と。ま。た。石。中。に。れ。ら
れ。た。地。は。あ。ま。る。事。な。り。て。い。は。ま。づ。く。事。と。あ。ま。
い。は。ま。づ。く。あ。ま。る。事。な。り。て。い。は。ま。づ。く。事。と
あ。ま。る。事。な。り。て。い。は。ま。づ。く。事。と。あ。ま。
刻。限。い。う。り。て。邪。魂。お。り。の。や。ま。づ。く。事。な。り。
何。ぞ。不。思。議。な。り。と。い。は。ま。づ。く。事。な。り。
い。は。ま。づ。く。何。ぞ。う。ま。づ。く。日。以。同。一。て。い。は。ま。づ。く
事。な。り。の。や。ま。づ。く。金。神。を。理。さ。れ。む。日。月。と。明。合。

四

精 せい

四

神祇の鳴ひぐきあるん。うゝをなすを。どろろ
 よ。つゝる人い。どろろをまて。びちる。前世乃聖
 賢。ちうひとまて。神と現に。給ふん。かくあゝ
 なる。神とあふ。いよく。やまひ。つゝあふは
 乃理とち。づる。まや。神の鳴ひぐき。又。うゝざ

たり。さういふのきゝとさういふまじりつゝのやう居て
予はさういふ事はいづれかして歸なり。予答て。さうぞ。
わくともやうする事ハ初まり。どびやうさうし如
うして。聖人所被るざるいふ事や。凡邪氣のどび
やうと事いふものも。この石明らるゝ處と知べし。
このぬよ。狐狸魅魘乃つことと事しも。妖怪とお
と事しも。只是淫士女子のたぐひよ。おほくして。正
士賢哲も。金銀を以て自己の病と思ふがごとくと
思ふ。つひといへる代。昨亦此等女を誘ひて。人のに
せよ。さういへば。自らぬよとさうぞ。又狐狸の妖
怪とす。事。先を覺れ。つゝさういふ如く。理といつてを

さへい事なり。とて。又妖怪と云ふべし。さ
も。天地萬物。皆二氣より成る。其理。陰陽
の二つ。くく。さる。然る。人。と。神。の。二つ。あ
る。一。て。万物の。もと。を。思ふ。と。どの。く。下。技。と。さる。と
す。皆。その。性。より。して。ち。理。の。自然。と。いふ。べし。は。人
と。雲。と。鳥。の。千。年。と。壽。と。す。と。て。蟪。蛄。の。一。日。と。朝。と
も。物。の。ち。と。守。り。雞。の。曉。と。さる。當。り。好。失。あり。狐
は。燐。火。あり。夢。の。三。更。を。臥。考。人。燕。の。秋。自。然。忘。る
が。ごと。く。さ。あ。ま。と。つ。と。桃。李。の。春。風。れ。外。榴。石。の。夏
とい。ふ。さ。菊。の。秋。とい。て。野。毒。の。冬。とい。と。る。等
も。亦。一。樹。各。一。乾坤。あり。物。の。ひ。く。か。ぬ。物。乃。情。

よりて。奇怪とするものなり。然るに理と論とを
おとよそ。禽獸の性いそをさくる事や。偏なり。
智くも。人智のほ。理のほ。それ
とつ。其他のほ。性後を教して。凝結する事
を。禽獸のさ。偏なり。て。事。あ。つ。さ
を。雜。ある。て。れ。の。つ。長。成。疑。
も。の。ゆ。も。あ。さ。れ。実。あ。て。志。
は。さ。事。天。仙。乃。通。と。得。人。
も。又。事。あり。婦。人。男。と。思。事。甚。く。さ。
邪。も。形。と。具。て。言。終。する。事。平。人。乃。こ。
ゆ。と。醫。書。に。さ。以。離。病。と。さ。と。さ。婦

人。性。又。狐。疑。も。り。智。く。理。あ。り。て。偏。も。人
以。思。ある。邪。凝。て。志。の。邪。は。し。狐。魅。と。一。極
や。邪。氣。凝。て。流通。す。れ。も。さ。か。ら。小。人。変。化。さ。
と。事。も。れ。と。定。邪。さ。ゆ。る。さ。さ。人
類。の。れ。つ。事。物。懸。さ。さ。理。さ。さ。性
と。つ。す。と。他。の。さ。さ。果。て。物。欲
も。あ。さ。人。も。又。物。欲。あ。さ。さ。て。通
る。さ。さ。ひ。人。瞻。彼。園。者。庫。室。生。白。と。而。婦
人。と。教。下。て。一。方。あ。供。さ。さ。光明。と。
さ。さ。さ。や。伊。川。先生。も。董。公。經。と。稱。て。
靜。則。自。明。と。さ。さ。さ。さ。の。さ。ひ

くろく。予ちろく。さめて。まうり。あえまうり。
又縁縁。裁する如の。百丈。縁。野狐の。結。子。
い。理。と。論。する。事。の。あ。い。と。

世間は奇物と云ふ。時の別は奇物なり。事な
れども。世も。ま。ま。なる。と。い。て。さ。い。ひ。と。る。も。人。の。
小見の人の。い。ろ。ろ。の。事。なり。其。の。廣。大。なる。
縁。縁。の。無。多。なる。と。い。う。に。変。化。混。雜。る。如。の。あ。
と。人。倫。の。よ。う。と。い。て。い。ふ。南。史。の。女。化。して。男。と
なる。と。い。ひ。漢。書。の。男。化。して。女。と。なる。と。い。ふ。
不。室。遺。事。の。揚。州。忠。が。妻。乃。は。つ。と。の。さ。い。子。以
う。と。い。う。い。づ。う。と。思。ひ。う。西。樵。野。記。の。男。の

子。と。い。う。と。い。ふ。と。裁。く。と。常。灯。新。記。の。馮。大。異。
が。男。化。の。隨。て。男。と。異。花。の。高。平。の。茶。茶。が。山。の
入。と。然。と。ぬ。い。づ。う。なる。事。の。さ。い。と。搜。神。記。
の。常。女。の。母。乃。驚。と。化。し。淮南子。の。牛。女。が。虎。と
化。し。なる。と。い。ふ。あ。る。と。い。ふ。或。の。予。首。は。肩。の。國。
龍。頭。の。民。女。國。の。人。國。の。如。の。あり。舒。信。
通。の。白。蛇。と。い。う。り。海。愚。の。夢。臨。と。い。う。り。野。狐。
の。百。丈。の。冬。し。て。疑。精。と。脱。し。山。猿。の。修。羅。の。遇。
て。神。傷。と。い。う。り。武昌。貞。婦。の。望。夫。と。化。し。彦。直。
藤。客。の。金。忍。と。い。う。り。楓。化。して。人。と。女。人。化。
て。寧。と。女。事。の。人。像。は。肥。と。い。う。り。大。人。と。女。事。の。像。

琥珣の塵埃拾ふにひてふもゆるおびとぬる。豊
城乃劔耶鄭の抱。陶壁れ援。葛陂の杖。その如く
物又多かり。さきにも人類の物と化し。物類の人と
化する理へあるもの。さする事なるもことなり。又、天地の
中の一物也。其靈氣をゆきむ。物も人へ成る。靈
気とくする人も。人も物と成。禽獸の性。冥物乃奇。
又、其性よりてあやむはらうと。小智小見の人と。
一偶は匠で造化の塵埃と。知ざる者よ。代のはり。
まどいさる。すまり多し。易とよむ人は。理をさぐり。
女ひひきて。かまびと。つづきあら。さうする。ず
と。心なる現れたる。みどり。つづき。男ハ卵を勒て。

女は肉紙にさむる。人の家の齊いさうも。大い女
 のまごぞう。人偏り大要るまごむ。縁のかれよ
 似さりあさま。なろふ控人い。父よそで。財ふ
 せで。そそ別りあう。古の人と。とつと。ちと
 ちで。劉信が封で。もさう。母の石。は。う
 ざうや。を境が齊は重ぜう。い。るまや。き。

むとあり。家より力とてさう入。嫁やいべー。我父
母の家より。高きうとて思へど。はつとふつとま
つ。ゆふ。ふや。く。ふ。あ。と。ば。あ。家より。力とてこれ
ふ。あ。う。り。ゆ。ふ。と。う。と。あ。と。又。先。は。同。是。相。氏。

のる。如く。理。宜。也。

教。み。の。一。簞。の。食。一。瓢。の。飲。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。
み。あ。ら。は。れ。ど。さ。れ。ど。簞。瓢。と。酒。巷。に。あ。る。て。も。樂。

即。ち。内。省。不。疚。又。何。憂。何。懼。と。い。ひ。ま。さ。る。
ら。る。事。も。あ。り。ん。

礼。經。の。ち。へ。は。男。子。十。六。歳。の。時。に。有。家。と。い。ふ。三。十。
歳。の。時。に。嫁。れ。ば。と。い。ふ。也。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。
と。生。れ。た。十。九。歳。の。時。に。是。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。
人。の。下。の。事。も。あ。り。て。聖。人。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。
也。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。母。の。事。も。あ。り。て。聖。人。と。い。ふ。
也。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。子。の。事。も。あ。り。て。聖。人。と。い。ふ。
也。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。聖。人。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。
也。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。聖。人。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。
也。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。聖。人。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。
也。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。聖。人。と。い。ふ。も。ま。り。れ。ど。

事と解ん。うかへる皆あへる。拘る事と。あへ
 と。ふ抄ていさくして。然しかと易書に解とくとる事。うへ
 てあまより。況や変へんと時ときと。あへる事と。該家
 皆用る。ふけり。ざる。とや。法ほう乃なり活くわく。時の中。道みちなる権けん
 醫い為なかる意い。

醫方心要。

萬乃藝能の付て、ずうに人々ぞこころひ年よ
 づゝとととのむい。世俗のあやまりるべし。顔面ハ
 サハもて死ぬもど。聖人の姓あり。彭祖ハ百
 まで生ぬもど。うき世とぞとる。のこるなり。さ
 せば。萬の藝能の人もの顔面はるもあるべし。彭
 祖なるもあやまり。よく執るべし。

人よ。ちあひくあり。むすもをたがうありて。を質た
 ごとく。まふ^{れや}ふ^{れや}ふ^{れや}て。言ひ。位はむるひ。行ひ。義は
 あたり。まづよるで。きくともいふ事ある。金銭不
 理^ふりて。下^ふ点の偶^ふれありむ。日月と。明^ふ然^ふあり
 とい。畧^ふ律と。地と。さうさうは。ほの人のとむ。醒^ふ人と
 いふ。又と。細^ふぬ倫と。ば。くまのり。智^ふ明^ふは。理^ふ通^ふ。
 義^ふよりついで。乃^ふよ。そむくぬやうよ。する人とも。賢^ふ人
 と。いふや。さうて。まふ^{れや}ふ^{れや}ふ^{れや}のひ。のひ。聖^ふ賢^ふの熱^ふ名^ふと
 いふ。さう。礼^ふ運^ふの篇^ふより。禹^ふ湯^ふ文^ふ武^ふ淑^ふ王^ふ周^ふ公^ふ氏^ふ。
 といふ。さう。六^ふ義^ふのさう。又^ふ輪^ふの乃^ふす人^ふのひ。まふ^{れや}
 而不^ふ位^ふ者^ふありとも。さう。きくまふ^{れや}ふ^{れや}ふ^{れや}とい。醒^ふ人^ふより下^ふ

又小人といふるは。智識^{チシキ}に。仁義をなすもの事
も。利欲^{リヨク}は。ばばして。世を惑^ウは。つゝとする
に。いひ。小人や。小人は。射^ヤに。る。最^{サイ}なる。人。又
愚^ウなる。人。と。いふ。よ。つゝ。て。是。故。に。云。ふ。也。
愚^ウなる。人。は。人。は。た。が。つ。か。れ。あ。ら。わ。れ。て。省^{シヨウ}
ざる。者。と。いふ。又。偽^{ヘイ}人。と。いふ。智^チも。と。いふ。事^{コト}。
も。と。いふ。也。辯^{ベン}は。と。いふ。人。と。いふ。か。利^リ欲^{ヨク}を
む。き。あ。り。て。さ。び。る。つ。ひ。あ。ひ。戯^シて。人。は。む。づ。ま。ず。
人。は。ほ。ろ。し。き。ん。と。する。は。つ。ひ。と。いふ。又。偽^{ヘイ}人。と。いふ。
偽^{ヘイ}人。は。偽^{ヘイ}人。各^{カク}別^{ベツ}や。と。いふ。偽^{ヘイ}人。と。いふ。事^{コト}。
一。と。いふ。と。いふ。て。是。故。に。各^{カク}別^{ベツ}と。いふ。事^{コト}。

是と邪と思ひ。邪と。是と。て。不^フ義^ギの。こと。と。いふ。也。
悪人といふ。又。いふ。事^{コト}。いひ。つゝ。て。人。の。心^{ココロ}。を。い。ふ。事^{コト}。
ひ。人。は。あ。ら。う。う。に。い。ふ。事^{コト}。あ。ら。う。い。ふ。事^{コト}。と。いふ。
人。と。殺^{コロ}す。と。いふ。事^{コト}。悪人といふ。又。智^チの。人。と。いふ。
人。才^{サイ}も。他^タも。と。いふ。事^{コト}。の。が。か。れ。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。
と。いふ。事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。辯^{ベン}は。あ。り。て。人。の。心^{ココロ}。を。い。ふ。
事^{コト}。と。いふ。人。は。偽^{ヘイ}人。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。
事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。

性^{セイ}。情^{セイ}。と。いふ。意^イ。と。いふ。事^{コト}。の。は。つ。ひ。各^{カク}別^{ベツ}や。
性^{セイ}。人。の。胎^{タイ}。に。う。る。事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。
と。いふ。事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。事^{コト}。と。いふ。

舜のようなり。不孝やとて一は舜の不孝の如し
や。嫁れすともなり。その為天子富貴海に及で
い。瞽叟底豫々。父子の倫破なりといふんや。
大孝聖人の権。不孝して。娶て。瞽叟底豫。宗廟
も。親も。子孫も。保ふ。夫婦の倫なり。父子の親
も。なり。若し権を知らず。強て。若しなり。必
不得。娶。舜も。畎畝の中。よ。老て。一生のあひ。正
ま。娶。男。なり。瞽叟も。豫と。いふ。すべし。宗廟
の。親。も。なり。子孫の。保。も。なり。夫婦の。倫。も。
なり。父子の。親。も。減。り。なり。聖人。いふ。や。然る。
て。又。舜の。不孝。して。妻。あり。せ。終。ふ。事。い。何。や。

竟も。孝。け。ハ。必。瞽叟。が。許。さ。ん。と。さ。る。也。然
る。竟。ハ。妻。や。なり。若し。下。民。の。私。と。い。ふ。也。抱。る。事。ハ。不
孝。して。妻。あり。せ。て。瞽叟。が。許。さ。ぬ。の。私。と。い
ふ。事。ハ。い。ふ。事。なり。さて。又。禹。の。舜。も。つ。人。終。ふ。何
ぞ。や。さ。し。も。若し。若し。と。い。ふ。事。ハ。父子の。親。と
い。ふ。事。なり。是。故。親。より。て。人。は。若し。ハ。か
る。父子の。親。も。若し。なり。て。い。ふ。事。ハ。父子の。親。も。
若し。ハ。か。り。是。故。親。ハ。私。や。若し。ハ。か。り。人。父
と。若し。と。較。ぶ。時。父。と。捨。て。若し。ハ。若し。ハ。若し。
の。公。也。さ。し。も。父。ハ。儲。る。不。共。載。入。事。ハ。礼
ハ。常。る。事。也。罪。負。り。て。誅。ある。時。ハ。子。不。敵。

張りの。もの。正る。も。下。也。ふ。う。と。い。ふ。ん。や。縣。が。死
 する。事。ハ。下。ト。こ。と。く。く。是。と。殊。セ。り。獨。尊
 と。視。て。父。の。儲。ふ。つ。も。禹。ハ。偏。僻。の。小。人。な。る。べ
 し。人。聖。と。い。ふ。は。下。に。比。つ。れ。あ。る。と。ぞ。尊。ぶ。
 ち。づ。い。て。洪。武。と。治。め。大。功。と。め。ら。う。し。あ。る。も。じ。
 縣。が。罪。も。下。ト。こ。と。と。殊。セ。り。縣。す。で。よ。死。に。り
 け。も。じ。魂。魄。安。ま。事。と。ゆ。ぎ。や。も。や。禹。ま。て。王。と
 あり。て。宗。廟。の。祀。子。孫。の。統。百。餘。年。よ。郁。々。年。に
 至。る。後。の。事。も。立。ぬ。父。子。の。位。も。亨。ま。り。禹。と。い
 吾。同。然。と。る。事。な。ま。こ。の。や。く。り。ま。て。又。湯。武。の
 征。伐。也。何。ぞ。や。ま。も。こ。湯。放。桀。武。王。伐。紂。事。ハ。

孟子も稱ゆる如明也。まづ是は後よ對せる名也
 天下と治むる職也。臣民と接育し。天下と平治
 せんと。是といふ事なり。臣民も是と。天下も是
 と。是。然。乃。こ。する。と。也。是。と。い。ふ。下。に。人。も。異
 多。然。合。し。女。色。欲。む。さ。づ。り。て。ち。法。を。あ。ら。さ。る。所
 と。也。僧。と。い。ふ。づ。う。さ。る。が。こ。う。い。ふ。ん。や。下。ト。も。つ
 人。乃。下。ト。み。あ。ら。さ。る。乃。下。ト。の。下。ト。ぞ。う。し。人。を
 是。と。い。て。億。兆。の。民。と。偏。溺。せ。し。む。も。罪。哉。征。せ。む
 ば。聲。知。乃。喪。失。知。さ。る。か。る。べ。し。ま。も。こ。樂。討。ハ。是。に
 あり。と。也。乃。獨。の。人。乃。こ。や。け。人。と。征。せ。る。よ。か
 もの。と。が。や。り。あ。れ。ん。伯。夷。叔。齊。が。武。王。と。ぞ。う。も。つ。る。ん。

麦秋あつてなるふり。りより夷存ハ古れ人
のちで。漢書は仰るものなり。て。權表と知るなり。
る。ち能くもいふ。聖の時。いふ事なり。中。立
不。倚。といふ。仰夷が教也。明儒を稱也。なり。
孔門の仰夷と。約家の訓明と。對して。つる事ハ。
を。跡。寂。寥。より。て。活。潑。の。氣。象。なるれ也。梅。花。
清。皎。より。て。香。る。もの也。枝。の。だ。け。や。う。う。ぬ。が
づ。り。仰夷が。眼。より。て。武王と。不。室。と。思。ふ。い。を
や。さ。さ。と。仰夷も。さ。さ。と。い。ふ。る。なり。武王と。さ。さ。
一。仰夷より。一。乃。並。行。も。て。不。悖。と。い。ふ。是。等。と
や。つ。と。さ。さ。と。武王の。約。も。仰夷。一。つ。さ。さ。と。

つ。と。さ。さ。と。なり。より。や。だ。く。も。西。國。より。多。人。は。
お。る。より。い。ふ。里。より。て。間。乃。より。い。ふ。百。里。なり。
よ。二。り。乃。並。行。あり。て。び。く。と。ん。時。一。人。の。麦
秋。て。間。乃。より。と。る。一。人。を。間。乃。と。さ。う。て。お。る
より。と。ん。よ。二。人。た。る。よ。多。く。入。事。ハ。な。る。と。れ。也。
乃。並。行。乃。不。同。ある。を。さ。さ。と。武王乃。約。ハ。間
乃。より。と。並。より。て。安。さ。さ。と。仰。より。仰夷が。約。ハ。中
道。より。と。さ。さ。と。て。考。する。が。さ。さ。と。され。と。二。人。と
り。お。不。違。者。と。い。ふ。べ。く。と。い。ふ。さ。さ。と。如。異。なる。を。さ。さ。と。
ある。人。乃。曰。孔子の。顔。と。い。ふ。尺。さ。さ。と。又。尺。さ。さ。と。の。さ。さ。と。ひ
武。と。い。ふ。尺。さ。さ。と。又。尺。さ。さ。と。の。終。乃。征。伐。と。さ。さ。と。り。



